

城陽市少年少女合唱団 ニュースレター第15号

発行：2025年3月



(2023年度スプリングコンサート・卒団式にて)

ご挨拶

城陽市少年少女合唱団 指導者 北澤雅恵

城陽市少年少女合唱団は、2025年3月29日に20周年記念特別定期演奏会を行います。第1部は卒団生も集まり、在団生と共に懐かしい歌を歌い、第2部は設立から20年間の軌跡を文化パーク城陽プラネタリウムのドームに映し出される映像で鑑賞していただく予定です。

この映像作成にあたり、20年を振り返ることになりました。もう、懐かしいやら、愛おしいやら、胸がいっぱいになりながら、映像を選びきれない日が何日も続きました。たとえ選んでも、映像の画質があまりにも悪かったり、傷んでいたり、雑音が入っていたりして、残念な思いに駆られることもありました。

でも、20年間いつも、手を抜くことなく、みんなで懸命に舞台に立ち続けてきたことを映像が証明しています。その時々「ドキドキ」が聞こえてきそうです。

映像を見ているうちに気付いたことは、「歌い続けている歌の多いこと」。芸術的価値のある曲の

数々を繰り返し歌っています。そして、それらの曲は何度歌っても様々に工夫する点が見つかります。カッチーニのアヴェ・マリアもその一つです。そして、子どもたちから「もう飽きた」という声は聞いたことがないのです。むしろ、気持ちよくのびのびと歌う。指揮者が変わっても、伴奏の楽器が変わっても動じず、豊かな響きで堂々と生き生きと歌う子どもたちです。こんな少年少女合唱団、他にありますか？ 芸術的な歌は1度や2度、舞台に乗せてできあがるものではなく、20年かけて何度も積み重ねて歌ってきた意義を感じさせられます。

合唱団は、いつも舞台という目標に向かってきました。1年に1度は、1200人のお客様が入れる京都コンサートホールで歌い、2年に1度は文化パルク城陽プラムホールでベートーベン作曲第九交響曲「歓喜の歌」をオーケストラと一般の大人も含め150名で大合唱。もちろんそれだけではありません。京都室内オーケストラ、テレマン室内オーケストラ、ラ・ルーナはじめ、中田美穂さん率いるプロの奏者たちとも共演。また、城陽市民余暇活動センター主催でアーティストの人たちとも数々共演させていただきました。共演いただいた方からは、いつも「美しい響き」そして「可愛い子どもたち」と褒めていただきました。仲間たちと一緒に暑い日も寒い日も音楽練習室に集まり、夢の舞台に向かって常に目を輝かせながら練習を続けてこられた幸せな合唱団。

本番近くなると誰もが緊張感を持ち、心ひとつにして歌と司会の練習をし、それぞれが責任を持って、マイクで話し、立つべき位置に自分で並ぶ。その積み重ねは、言葉で説明できないものを育て上げています。

20周年にあたり、映像ではそんな合唱団の軌跡を卒団生たちと懐かしみ、在団生たちも共に微笑みが溢れる中、鑑賞できることを願ってやみません。

§ 2024年度活動報告 §

♪スプリングコンサート&卒団式（3月30日）：文化パルク城陽ふれあいホール

今回のスプリングコンサートでは一人ひとりがソロで舞台に立ち、それぞれ素晴らしい歌を披露してくれました。お姉さんたちは堂々と、年下の子どもたちは緊張しながらも、一生懸命に歌う姿に私を含め保護者の皆様も成長を感じられたのではないかと思います。

このような素敵な舞台をご用意くださった北澤先生とこの日のためにご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。
(小3保護者 長澤友恵)



スプリングコンサート終了後に卒団式が行われました。

卒団生第59号六車姫歌さん、第60号森理世さん、ユースクラス卒業生井嶋啓恵さんが卒業証書や記念品を授与されました。城陽市文化芸術協会会長津守様より式辞を頂戴し、北澤先生のご挨拶がありました。在団生代表立石鈴より送辞が送られ、卒団生代表六車姫歌さんによる答辞、卒団生の歌

「生命の奇跡」歌唱、合唱団からの歌「旅立ちの日に」で幕を下ろし花道を飾りました。

姫歌ちゃん、理世ちゃんはいつも穏やかで合唱団を温かく支えてくれました。啓恵ちゃんのような憧れのお姉さんになれるように、在団生も皆と培った日々を誇りをもってこれからも歩いてほしいと思いました。
(中3中1保護者 立石弥奈)

♪テレマン室内オーケストラとの共演(6月30日)：文化パーク城陽ふれあいホール

「テレマン室内オーケストラの方と共演」と聞くと音楽に通じている人なら誰もが「すごい!」といわれる演奏会。「子どもたちに本物を」と城陽市民余暇活動センターが企画してくださいました。当日は、ふれあいホールに満席のお客様でした。

2021年コロナ禍において合唱活動がピンチに追い込まれた時、合唱団はソニー子ども音楽基金に応募し、バロック音楽をプロの演奏家と一緒に演奏する夢を叶えました。初めてバロック音楽に触れた子どもたちにとっては、その時に練習した曲の貯金があるからこそ、胸を張ってお受けすることができた演奏会です(ピンチはチャンス)。大きなお姉さんたちは、もっと以前から歌い続けている曲でもありました。両者によって合唱団20年の歴史がテレマン室内オーケストラとの共演を可能にしたのでした。

指揮者の延原先生は、合奏リハーサルでオーケストラの指揮をされませんでした。ご覧になっているだけで、あとから少しアドバイスをされた感じでした。体調がお悪いのかと心配しましたが、もう、指揮をしなくても何百回と同じ楽器奏者たちと演奏されているので、その必要もないのでした。本番でも最小限の棒の振りにもかかわらず、そのエネルギーと集中ある姿に大変魅力を感じたのは私だけではないと思います。子どもたちも、真剣に音楽に向き合う延原先生のオーラとエネルギーの凄さを感じたことと思います。ホールの客席後方で、懸命に子どもたちがよく指揮を見て、先生について歌っている姿を目にし、愛しさで胸がいっぱいになりました。

演奏会后、延原先生はとても褒めてくださり、「是非再び一緒に演奏会をしましょう」と再共演を望んでくださいました。なんと嬉しい演奏会だったことでしょうか。子どもたちは、コロナ禍が終わると、プロの演奏者と共演する機会をいただき、本物に出会い、目には見えない宝物を益々身に着けたことと思います。暗闇の中でも、光を求めてひたすら歩き続けることの大切さを教えられた気がしました。

【演奏曲：カッチーニのアヴェ・マリア わたしを泣かせてください 主よ人の望みの喜びよ】

(指導者 北澤雅恵)



♪友愛ホームでの演奏（7月27日）：友愛ホーム寺田ケアセンター



友愛ホームは卒団生のご家族とも深い関わりがあり、文化パルクが使えないときに練習場としてお世話になった場所でした。

本番前に司会の練習をして、上級生が下級生の着替えを手伝い、20周年記念Tシャツでさわやかな印象となりました。本番ではお年寄りの皆さんと一緒に体を動かしたり、日本の季節を感じる歌を歌いながら楽しく交流しました。「海」では波の音がする楽器を順に鳴らし、皆さん楽しそうに歌っていただきました。曲目の中にはトランペット演奏や

ボーイソプラノ歌唱もあり、団員個々のレベルアップも感じられました。私達のおきのおき2曲「アヴェ・マリア」「私を泣かせてください」では涙を流して聞き入る方々もいらっしやいました。

最後に、「少年少女冒険隊」で元気一杯の子ども達、その様子を見て笑顔のお年寄りの皆さん、会場が至福に満ちた雰囲気になりました。その後手拍子と共に「また来てね！また来てね！」とアンコールのような声かけが何十回も続き、自分達の合唱がこんなにもたくさんの人の心に響くことを感じ大満足気な顔をしていたのが印象的でした。

【演奏曲：カッチーニのアヴェ・マリア 私を泣かせてください 茶摘み 海 紅葉 雪 どんぐりころころ あたま・かた・ひざ・ぼん 幸せなら手をたたこう ピエイエズ 少年少女冒険隊 ふるさと】

(小6保護者 小笠原好美)

♪平川幼稚園お誕生日会（8月6日）：平川幼稚園ホール

平川幼稚園では毎月お誕生日会が開かれます。園児たちは朝からわくわく待ち遠しい気持ちでホールに集まります。音のプレゼントとして、8月は城陽市少年少女合唱団の中から平川幼稚園を卒園した9名が参加し、合唱をプレゼントしました。園児のみんなも知っているトトロの「さんぽ」や、♪うみは広いな～大きいな～♪など、いっしょに歌ってくれたり手拍子やリズムに合わせて体を揺らしたり、ホール全体が一体感に包まれました。歌って踊る「少年少女冒険隊」はとても盛り上がったのを鮮明に覚えています。

私個人としましては、ついこの前まであの小さい椅子に座り、音のプレゼントを見ていた側だった子が今度はプレゼントする側になり、成長を感じずにはいられない思いで胸が熱くなりました。小さい時から音楽に触れ、いつしか歌う



ことに喜びを感じ、合唱する素晴らしさをこの子ども達が引き継いでくれることを願います。

身近に音楽があるって素敵ですよ♪ ありがとうございます。

【演奏曲：カッチーニのアヴェ・マリア にじ 海 少年少女冒険隊 さんぽ】

(小3保護者 佐藤久美子)

♪京都子ども合唱祭（8月11日）：京都コンサートホール大ホール

今年も年に1度の大きなステージが巡ってきました。真夏の日差しが照りつける中、全員元気に集合し、京都コンサートホールに向けバスで出発しました。出発して間もなく、子どもたちの自主練が始まりました。天使の歌声が優しくバスに響き渡り至福のひとつときを過ごさせてもらいました。



到着後、先生方と合流しホワイエでの練習、リハーサルと進み本番に備えました。

お昼休みの後全員合唱のリハーサルもあり、京都市少年合唱団の加藤完二先生のご指導で「茶かほる」を練習しました。他の合唱団の子たちの声を浴びながら一緒に歌うのは合唱祭ならではのことで、新鮮な経験になった団員もいたのではと思います。

今回は、合唱団が歌い継いできたカッチーニの「アヴェ・マリア」と「私を泣かせてください」、そして初披露の「水の星のボレロ」を歌いました。「水の星のボレロ」は、城陽の水野弘子バレエ学園の水野永子先生が作詞・作曲され、北澤先生が編曲された城陽生まれのとても、とても美しい曲です。それに合わさる天使の歌声を聴き、この曲もずっと歌い継いでいってほしいと思いました。

合唱祭に参加する団が減り、京都コンサートホールでの開催も今回が最後となるなど寂しく思うこともあります。来年以降もこれまで通り出演できることを願っています。

終わりに、北澤先生、伴奏の桂先生、共に引率の矢作さんご夫婦、撮影もしてくださった森田さん、バスのドライバーさん、添乗の文化芸術協会人見様、保護者の皆様に感謝申し上げます。

(小5保護者 雨山深雪)

♪JOYOコーラルフェスタ2024（8月18日）：文化パーク城陽ふれあいホール

私がエンゼルランプとしてコーラルフェスタに参加してみようと思ったのは、娘が入団して間もない頃でした。初めは単純に歌うことが好き等々といった理由だけでしたが、まだ入ったばかりの私は顔見知りの方がいるわけでもなく、初めて練習に参加する日は不安と緊張でいっぱいでした。

しかし、いざ行ってみると、そんな気持ちはすぐに消えてしまいました。温かい北澤先生のご指導のもと、在団生、卒団生、保護者の皆様と作り上げていく合唱はとても楽しく、毎回の練習がいつも待ち遠しかったです。在団生、卒団生の歌声は本当に美しく、心を打たれました。

本番では子ども達と同じように私もステージに立たせていただき、みんなで衣装を合わせて北澤先生の指揮に合わせ心一つにして歌い切ることができました。歌っている時、北澤先生の表情を見て少し涙が出そうになりました。

コーラルフェスタに参加したことによって巡り会えた方々と、子ども達が普段している合唱の楽しさ、素晴らしさを実感でき、大人になってまだこのような素敵な体験ができるなんて思ってもみませんでした。そして改めて城陽市少年少女合唱団というチームって素敵だなと思いました。それも温かい北澤先生だからこそ築き上げてこられたんだなと思いました。素敵な企画に参加させていただき本当にありがとうございました。またこのような機会がありましたら是非参加させていただきたいです。

(中3保護者 小沼瑛璃奈)

(編集より)

エンゼルランプは城陽市少年少女合唱団の保護者による会で、合唱団20周年記念事業の1つとしてコーラルフェスタに出演しました。有志の卒団生、卒団生保護者、在団生も加わり「Now is the month of Maying」「みえない手紙」「ぜんぶ」を美しい歌声でお届けしました。

今回は合同合唱もあり参加者全員で「おおシャンゼリゼ」を歌いました。コールアイリス中西弥生先生のご指導で何度か練習して、ホールに皆さんの声が響き渡りました。子どもたちは、合唱祭でも歌ったカッチーニの「アヴェ・マリア」「私を泣かせてください」「水の星のボレロ」を披露し、たくさん拍手をいただきました。

城陽市少年少女合唱団とエンゼルランプ、親子で素晴らしいなと多くの方々に感じていただけたなら幸いです。

♪合宿（8月24-25日）：ペンション愛宕道

朝8時25分寺田駅ロータリー集合。ワクワクとドキドキの表情のみんな。

教育委員会のバスで、文化芸術協会の常任理事様にも同乗していただき、いざ、ペンションに向けて出発！山の中、森の中に入ってペンションに到着、みんなで協力して荷物をバケツリレー。練習もして、川遊びもして、外でのランチ。急な雨降りもありましたが、外でのバーベキューも楽しめました。お楽しみ会では、一緒に参加させてもらった和奏ちゃんお母さんと私も、子どもの頃に戻った気持ちで大盛り上がり。こんな楽しい合宿をみんなは体験してたのね！とうらやましくなりました。

次の日の朝は、森の中へお散歩、自然の中でのみんなの歌声は、まるで物語の中の雰囲気を感じさせるものでした。

普段は元気いっぱいの普通の子どもたちも、練習が始まるとさすがの切り替え！素晴らしい歌声を聴かせてもらいました。



合唱団のみんなが年代を越えて仲が良い秘訣をこの合宿の中で感じ、多くの方に協力や応援をいただいて成り立っているんだと、改めて実感しました。

買い出し等の準備から2日間の合宿中、フル活動していただいた北澤先生、本当にありがとうございました。
(中2保護者 矢作亜希)

♪市民音楽祭（11月10日）：文化パーク城陽ふれあいホール

2年ぶりに市民音楽祭に出演しました。この市民音楽祭は、合唱団が所属する城陽市文化芸術協会が主催です。その舞台上で今年は、トリを任せられました。以前は前座のようであった合唱団が、トリを任せられるような存在になれたことがとても嬉しく感じられました。

控室は広い和室を用意していただき、子どもたちは畳に座り、いつもと違う落ち着いた雰囲気の出番前でした。



舞台では、司会アナウンサーの大谷邦子さんが、次のように紹介してくださいました。「今年、合唱団は20周年を迎えました。団員は小学生から中学生までで、中学を卒業するとユースクラス団員として活動します。毎年、卒団と入団が繰り返されてきましたが、団員が優しく温かくて兄弟姉妹のように仲が良いのは20年間全く変わらない合唱団です。そして、声の響きは天使のようで聴いてくださる人々の心を癒します。皆様に見守られ育った20年の感謝を込めて、今日もホールいっぱい声を響かせます。」

初めてのウィーン少年合唱団スタイルで、ピアノを中央にした弾きぶりの指揮にもかかわらず、子どもたちは、迷わず懸命に歌い、舞台から涙をぬぐう人を目の当たりにしました。

【演奏曲：カッチーニのアヴェ・マリア（日本の四季の歌より）春の小川・海・紅葉・雪 わたしを泣かせてください 水の星のボレロ】
(指導者 北澤雅恵)

♪第12回城陽第九フェスティバル（12月15日）：文化パーク城陽プラムホール

2000年に始まり、2年に1度開催されている「城陽第九フェスティバル」。今年で12回目を迎えました。

今回も指揮は関西フィルハーモニー管弦楽団の主席指揮者・藤岡幸夫先生、演奏は関西フィルハーモニー管弦楽団、歌はプロの4人のソリストと公募で集まった城陽第九フェスティバル合唱団。さらに、前回に続き城陽市少年少女合唱団も参加。そして今回のフライヤーには、名だたる出演者の名前と共に「城陽市少年少女合唱団」の名が加わりました。

2 度目、3 度目の参加となる団員も、今回が初舞台の団員も、限られた時間の中で一丸となって練習に励みました。さらに卒団生も加わり、より心強い合唱団に。

コンサートが幕を開け、「第九」は第1楽章から第3楽章へと進行。やがて舞台上にソリストと合唱団が登場し、ついに第4楽章「歓喜の歌」へ。藤岡先生の情熱あふれる指揮、力強く美しいオーケストラの演奏、そしてソプラ



(リハーサルの模様)

ノの森田裕子さんの圧巻の歌声。ホール全体が感動に満ちあふれる瞬間でした。

ステージに立つ子どもたちは、ライトの熱気の中、静かに前を見据え、長い待機時間も微動だにせず集中。そして、合唱の瞬間が訪れると、弾けるような歌声が響き渡りました。年齢層の高い出演者に囲まれながらも、堂々と歌い上げるその姿に胸を打たれました。

年末の風物詩ともいえる「第九」。まだ1年生だった息子が合唱団に入り、初めて歌ったこの曲。6年生になった今、その成長を実感させてくれる特別な曲になりました。

子どもたちがプロの演奏家や音楽を愛する大人たちと共に、音楽の素晴らしさを体感できるこの貴重な機会をくださった城陽市民余暇活動センターの皆様、そして北澤先生に心より感謝申し上げます。
(小6 保護者 山崎悦子)

♪ エントランスコンサートとクリスマス会 (12月21日)



澄み切った冬の空気に合唱団の歌声が優しく響きわたる、そんな素敵なクリスマスコンサートがエントランスで行われました。風利君の愛らしい天使の登場で集まった人からは「可愛い！」の声。普段は静かなエントランスがこの日は温かい空気に包まれ、一気に別世界のような空間になりました。

馴染みのある曲が合唱団ならではのハーモニーで全く違う表情を見せ新鮮な感動を覚えました。合唱団の皆の表情も素晴らしく、歌う喜びや聴く人を楽しませたいという気持ちが伝わってきました。合唱団の皆さん、素敵なクリスマスプレゼントをありがとうございました。

【演奏曲：サンタが街にやってくる We wish you a Merry Christmas さやかに星はきらめき 荒野の果てに 私を泣かせてください カッチーニのアヴェ・マリア 水の星のボレロ 少年少女冒険隊】

エントランスコンサートの後、毎年恒例、合唱団の一年の締めくくりであるクリスマス会がありました。今年はインフルエンザが流行り残念ながら全員参加とはなりませんでしたが、歌っている時の真剣な表情とは違って皆のはじけた笑顔が印象的でした。団員による出し物、プレゼント交換、ゲーム遊びを通じ、団員の皆の絆もより深まったことと思います。 (小3保護者 早川景子)

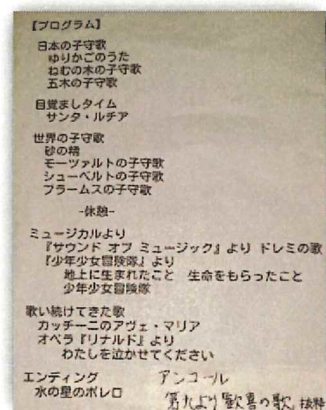
♪もう一つの城陽 ホール de クワイヤー(1月26日) : 文化パーク城陽ふれあいホール

毎年この季節に団員とは別に一般の歌が好きなお友達を迎え開催される次世代コンサート。今年はどうな子が参加してくれるのかな?とわくわくするコンサートです。今年的一般参加のお友達は4人で、中学生1人、小学3年生2人、小学1年生が1人でした。そして今回は卒団生のソプラノ歌手熊優美先生、ピアノ伴奏には先輩の井嶋啓恵さんが参加してくださいました。

9年前に歌ったという、サウンドオブミュージックの「ドレミの歌」ではマリア先生役の優美先生を先頭にトラップ一家の兄弟姉妹さながら、背の順にずらっと並び、楽しく歌いました。歌の後に、「9年前には優美先生は中学生、井嶋啓恵先輩は私と同じ9歳で、ここで歌って踊っていたんだ」というセリフがありました。今年20周年を迎えた合唱団。こども達はみんな、自分が生まれる前から続く合唱団の時間の流れに不思議な思いを寄せ、先輩たちと繋がってきたこと、繋がっていくことを感じながら、今の自分達の歌を歌っていたのではないのでしょうか。

今回のテーマは「世界の子守歌」。午後1番のまどろんだ空気の中、こども達の美しい響きに聞き入っていると、「もしも～し、起きていますか?」のナレーション。客席に微笑みが広がりました。そんな一瞬がみんな大好き。セリフにも心がこもり、気合が入ります。時には歌の途中、涙を流されるお客様もおられ、こども達は舞台からその様子、空気を感じ取っています。このような経験をし、様々な思いを表現すること…素晴らしい経験と、それをいつも支えて下さる先生のご指導は本当に素晴らしく、いつも感謝しています。

音楽文化を未来に伝えることを目標としたこの演奏会は余暇活動センター主催のもとに開催され、受付、会場の準備等ご尽力いただきました。こども達にはいつも愛情たっぷりに接していただき、笑顔で見守ってくださる余暇活動センターの皆様、音響、照明等いつも支えてくださる皆様に、厚くお礼を申し上げます。 (小3保護者 我谷智子)



スプリングコンサート&卒団式
2025年3月20日(木・祝) 13:00～
文化パーク城陽ふれあいホール

卒団生

立石 鈴さん 平井 理愛さん 吉村 優花さん
おめでとうございます!

♪20周年記念特別定期演奏会♪

2025年3月29日(土)

第1部 : 13:30～ 文化パーク城陽ふれあいホール

在団生、卒団生、在団生と卒団生の保護者の皆様に歌い楽しいひとときを過ごします。

第2部 : 18:00～ 文化パーク城陽プラネタリウム(コスモホール)

プラネタリウムに映し出される合唱団20年の軌跡を鑑賞します。(第2部のみ一般参加可)

～今後の出演予定(2025年3月現在)～

♪2025年7月21日(月・祝) コーラルフェスタ

♪2025年8月11日(月・祝) 京都子ども合唱祭(京都市右京ふれあい文化会館)

♪2025年11月29日(土) 青谷コミセン

♪2025年12月14日(日) うじたわらお茶の里の音楽会

♪2025年12月20日(土) エントランスコンサート

♪2026年2月28日(土) もうひとつの城陽 ホール de クワイヤー

発行元：城陽市文化芸術協会 城陽市少年少女合唱団